

第1章 個別の状況に応じた具体的支援について

◇ 支援の始まりは気づきから

ことばの理解が悪い、全体の指示がわからない、友だちとうまく遊べない、落ち着いて話を聞くことができない、何回も同じ注意をしなければならぬ、気持ちの切り替えが難しい、こだわりが強く興味関心が偏っている、などの気になるこどもの姿に出会います。

それはコミュニケーションや社会性、日常生活スキル、ことばの理解や記憶に弱さや苦手さを持った子どもたちからのサインであり、適切な支援があれば理解してできたり、弱さを軽減できる子どもたちなのです。

◇ こどもの困りと適切な支援へ

子どもからのサインに気づき共感することから支援がスタートします。私たちおとなが、子どもをよく観察しどの部分につまずきがあるのかを見極め、適切な支援（環境面と援助面両方）を考えます。支援の方法は発達障害の特性をしっかりと捉えそれを生かした支援方法を使うことです。支援がうまくいくと、子どもは見通しが持て活動内容がわかり、自己肯定感や自信を持って新しいことにチャレンジするようになります。保育士の声かけや行動は他児へのモデルにもなります。こどもの姿が変わると保護者との関係もスムーズになります。

どのようなことが得意でどのようなことが苦手で、そしてどのような支援が必要なのか一人一人違いますが、第1章ではいろいろな場面で行った支援とその支援による効果、こどもの状況を紹介しています。

〔具体的支援〕の写真の所にある番号は第2章わかりやすい環境づくりのコメントでも紹介しています。あわせてご覧ください。